

令和5年度 全国学力・学習状況調査

香取市教育委員会

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の名称 令和5年度全国学力・学習状況調査

3 調査の対象

- (1) 小学校調査 小学校第6学年
- (2) 中学校調査 中学校第3学年

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査【国語、算数・数学、英語】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等。
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

[児童生徒に対する調査]

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

[学校に対する調査]

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 調査実施日 令和5年4月18日(火)

※中学校英語「話すこと」調査は期間内実施
(令和5年4月18日～5月26日)

6 調査結果

(1) 本体調査の結果から

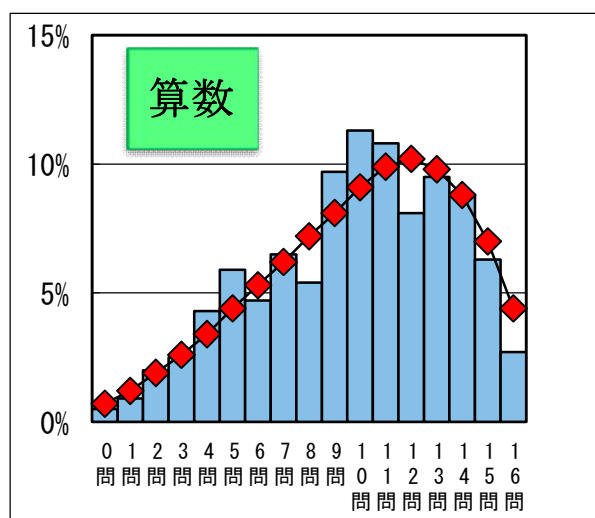
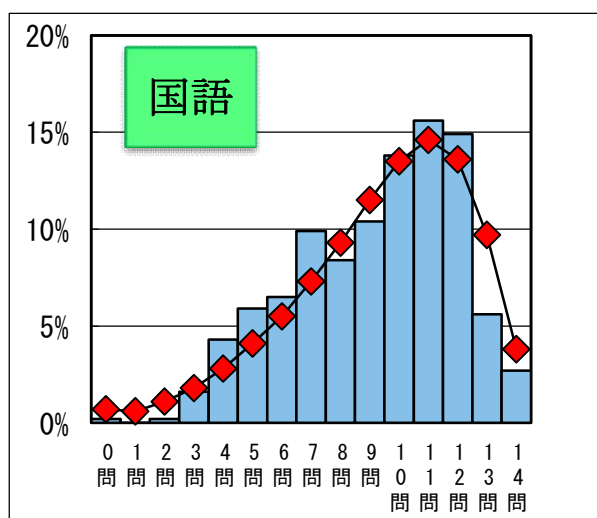
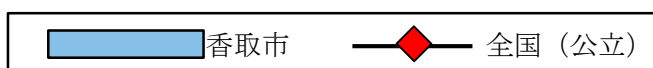
小学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科	香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語	66	67	67.2
算数	61	62	62.5

【正答数分布グラフ】



平均正答率では、国語・算数ともに千葉県（公立）及び全国（公立）の結果を下回っていますが、その差はわずかでありほぼ同程度といえます。

正答数分布グラフでは、国語・算数のどちらも裾引き型の形状となっています。全国とほぼ同形状といえますが、算数は、全国よりも最頻値が低い階級にあることが分かります。

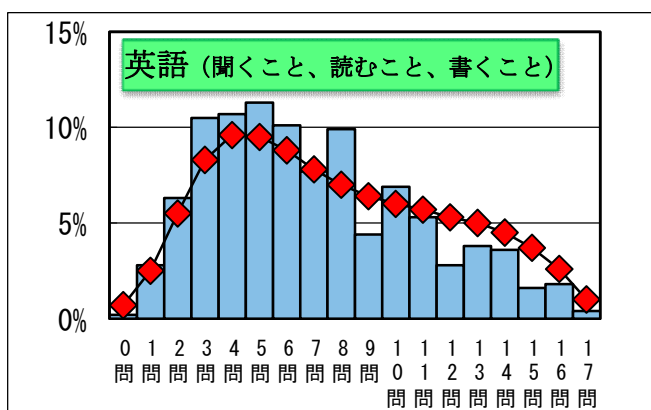
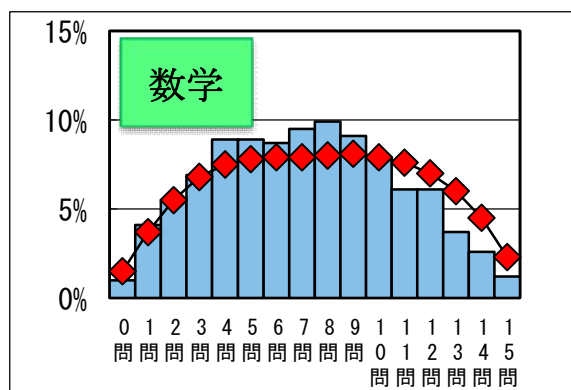
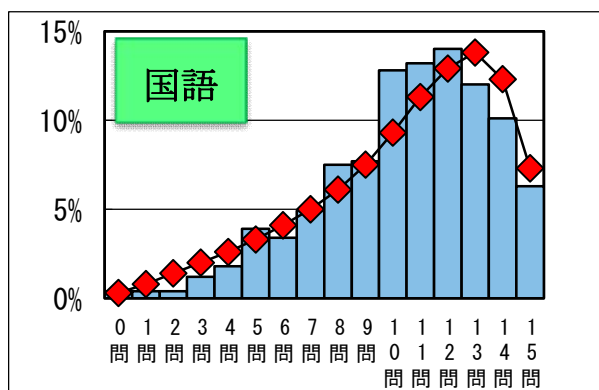
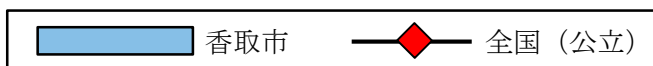
中学校の結果

(注) 調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【平均正答率 (%)】

教科		香取市	千葉県(公立)	全国(公立)
国語		70	69	69.8
数学		48	51	51.0
英語	聞くこと 読むこと 書くこと	41	46	45.6
	話すこと	非公表	非公表	※全国(国公立) 12.4

【正答数分布グラフ】



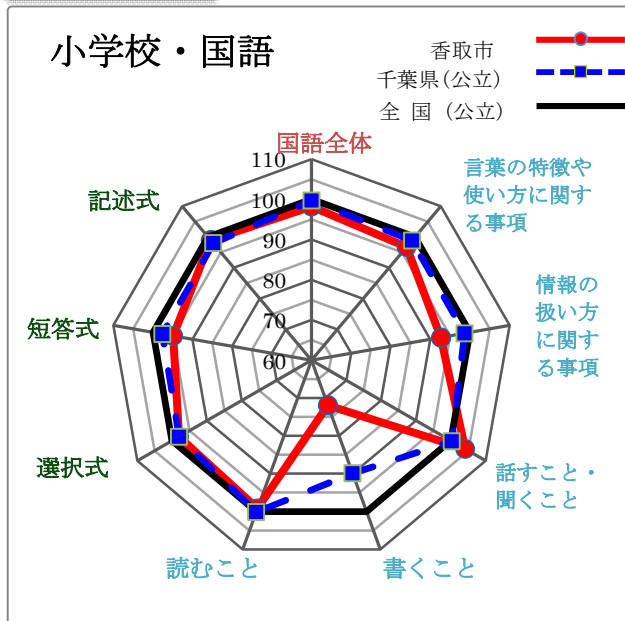
平均正答率では、香取市は国語が全国(公立)の結果を上回りましたが、数学と英語(聞くこと、読むこと、書くこと)で全国(公立)の結果を下回っています。数学、英語のどちらも上位層が薄く、中位層から下位層が厚い特徴があります。なお、英語「話すこと」調査について、千葉県及び香取市の結果は非公表です。

(2) 教科についての傾向と課題

※全国（公立）の平均正答率を100として、千葉県（公立）、香取市の平均正答率を相対的に表したグラフです。

小学校・国語

傾向と課題



内容別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国平均を上回りましたが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」は全国平均を下回っています。特に「書くこと」では、全国平均を100とした場合、香取市が71.9となる結果でした。

問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてで全国平均には届かなかったものの、ほぼ同程度といえる結果でした。課題であった「記述式」に改善の傾向が見られます。

課題が見られた主な問題

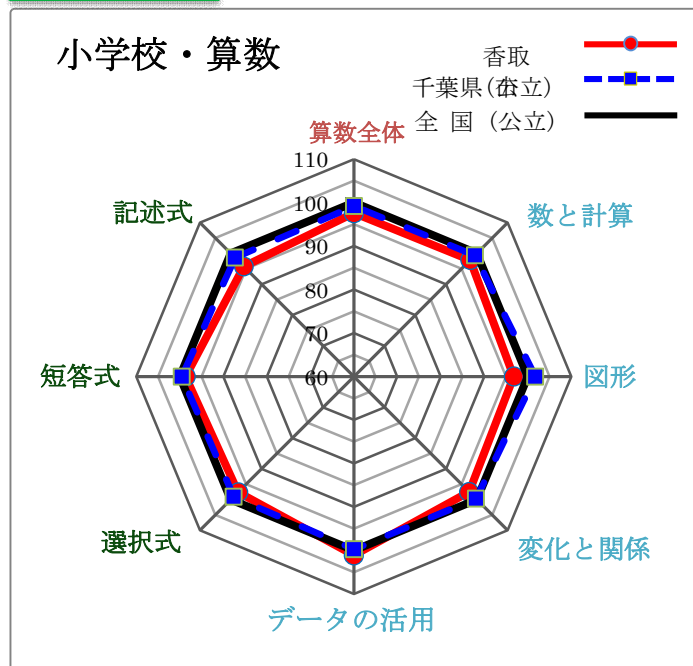
● 国語 1 二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる 【書くこと、記述式】 [香取市 19.2% 千葉県(公立)24.0% 全国(公立)26.7%]
● 国語 1 一	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 59.4% 千葉県(公立)63.2% 全国(公立)64.7%]
● 国語 2 三	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 58.2% 千葉県(公立)61.9% 全国(公立)62.0%]

力を入れたい学習

- 図表やグラフの特徴、優れている点等について、他教科等と関連して指導すると効果的である。また、推敲の際は、図表やグラフなどの用い方は適切か、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直す。児童の学習状況に応じて、教師が図表やグラフを用いたモデルとなる文章を提示することも考えられる。
- 情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的につないだりすることができるとう効果的である。また、情報を整理する際には、ICT 機器を活用すると、編集したり視覚的に捉えたりしやすくなる。

小学校・算数

傾向と課題



「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で、全国平均にはわずかに届きませんでした。ほぼ同程度といえる結果でした。「データの活用」領域は全国平均を上回りました。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて、全国平均とほぼ同程度といえる結果でした。これまで「記述式」が大きな課題となっていました。改善の傾向が見られました。

課題が見られた主な問題

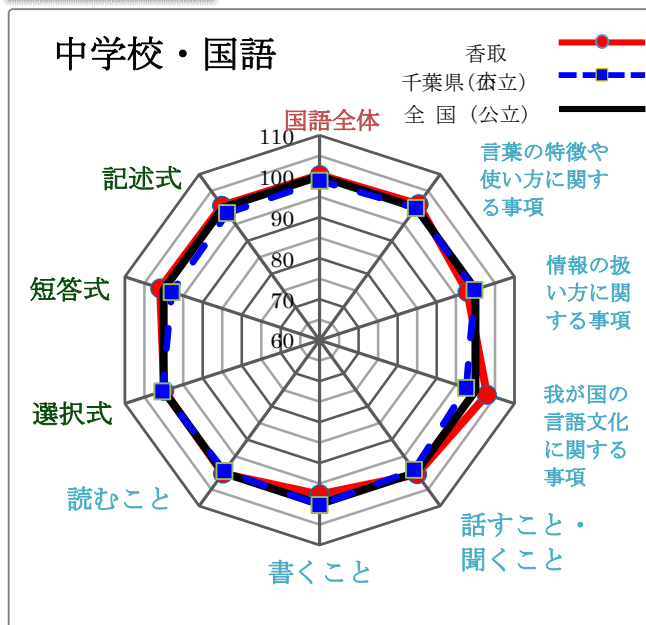
● 算数 4(1)	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる 【変化と関係、選択式】 [香取市 39.7% 千葉県(公立)45.8% 全国(公立)46.0%]
● 算数 3(1)	() を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる 【数と計算、選択式】 [香取市 65.0% 千葉県(公立)69.4% 全国(公立)70.3%]
● 算数 2(4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる 【図形、記述式】 [香取市 16.9% 千葉県(公立)19.9% 全国(公立)20.8%]

力を入れた学習

- 具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。例えば、百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉える活動が考えられる。その際、図表等を用いて視覚的に捉えると効果的である。
- 式を用いて数量の関係を表したり、具体的な場面と関連付けて式を読んだりすることが重要である。例えば、2通りの式を具体的な場面と結び付けて、式の中の数値や演算は何を表しているかを明らかにして説明する活動が考えられる。
- 底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにすることが重要である。例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい2つの平行四辺形や、2つの三角形の面積を比べる活動が考えられる。さらに、図形の面積を求めるために、図形のどの部分の長さが必要であるか判断する活動も考えられる。

中学校・国語

傾向と課題



内容別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」

「読むこと」が全国平均を上回りました。「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」は全国平均をわずかに下回りましたが、ほぼ同程度といえます。

問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて全国平均とほぼ同程度といえます。特に、これまで課題であった「記述式」は、改善の傾向が見られました。

課題が見られた主な問題

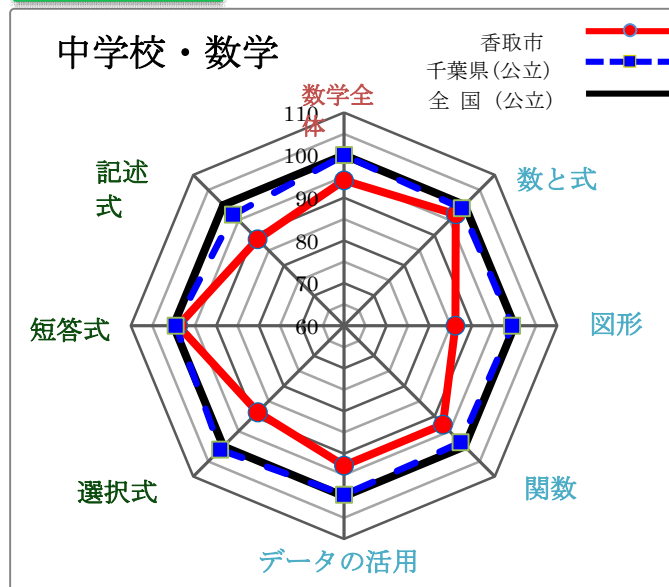
● 国語 3 一	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる 【書くこと、選択式】 [香取市 50.3% 千葉県(公立)54.0% 全国(公立)54.3%]
● 国語 4 三	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる 【読むこと、記述式】 [香取市 46.7% 千葉県(公立)48.3% 全国(公立)50.0%]
● 国語 1 二	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる 【情報の扱い方に関する事項、選択式】 [香取市 62.9% 千葉県(公立)64.4% 全国(公立)65.1%]

力を入れたい学習

- 推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとするのが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。
- 教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめそうな現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられる。その際、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうように指導することが大切である。
- インタビューを行ったりレポートを書いたりする前に、目的や場面、意図に応じて資料を集め、資料から必要な情報を取り出して整理するなどの学習活動が考えられる。その際、資料の内容を理解するだけでなく、意見と根拠などの関係に注意して、情報と情報の結び付きについて捉えることができるように指導することが大切である。

中学校・数学

傾向と課題



領域別では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべてにおいて全国平均を下回っており、特に「図形」は、全国平均を100とした場合、香取市が86.1となる結果でした。

問題形式別でも、「選択式」「短答式」「記述式」すべてにおいて全国平均を下回っています。特に「選択式」「記述式」は、全国平均を100とした場合、どちらも香取市が88.7となる結果でした。

課題が見られた主な問題

● 数学9(1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる 【図形、記述式】 [香取市 23.9% 千葉県(公立)31.1% 全国(公立)32.1%]
● 数学4	反比例の意味を理解しているかどうかをみる 【関数、選択式】 [香取市 36.1% 千葉県(公立)42.1% 全国(公立)42.8%]
● 数学1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる 【数と式、選択式】 [香取市 40.6% 千葉県(公立)47.3% 全国(公立)46.1%]

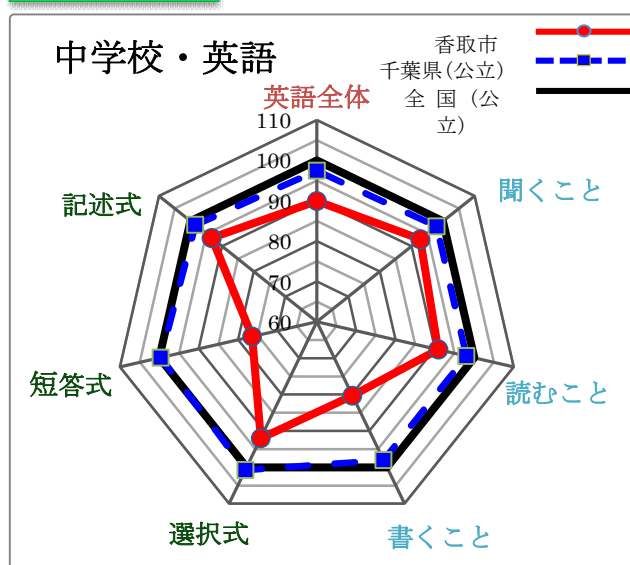
力を入れたい学習

- 構想を立て、それに基づいて仮説から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。例えば、2つの直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるとといった構想を立てる活動を取り入れることが考えられる。
- 反比例の意味を理解できるようになるためには、反比例の特徴を表や式などに関連付けて捉えるように指導することが大切である。また、伴って変わる2つの数量を見い出して、その関係に着目し、目的に応じて、表、式、グラフを用いて、2つの数量の変化や対応の特徴を考察し、どのような関数関係にあるかを判断できるように指導することが大切である。
- 新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断する活動を取り入れることが考えられる。その際、小学校算数科では整数を0と正の整数を合わせたものとして捉えていたことを振り返り、中学校数学科では、負の整数を加えて捉え直し、整数の意味について理解を深めることが大切である。

中学校・英語

傾向と課題

※「話すこと」調査における香取市の結果は非公表



領域別では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべてにおいて、全国平均を下回る結果でした。特に「書くこと」は、全国平均を100とした場合、香取市が80.3となる結果であり、大きな課題といえます。

問題形式別では、「選択式」「短答式」「記述式」のすべてにおいて、全国平均を下回る結果でした。特に「短答式」は、全国平均を100とした場合、香取市が76.4となる結果でした。こちらも大きな課題といえます。

課題が見られた主な問題

● 英語9(2)	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる 【書くこと、短答式】 [香取市 20.2% 千葉県(公立)28.0% 全国(公立)29.0%]
● 英語1(1)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる 【聞くこと、選択式】 [香取市 70.3% 千葉県(公立)78.6% 全国(公立)79.0%]
● 英語7(1)	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる 【読むこと、選択式】 [香取市 51.1% 千葉県(公立)59.5% 全国(公立)59.8%]

力を入れたい学習

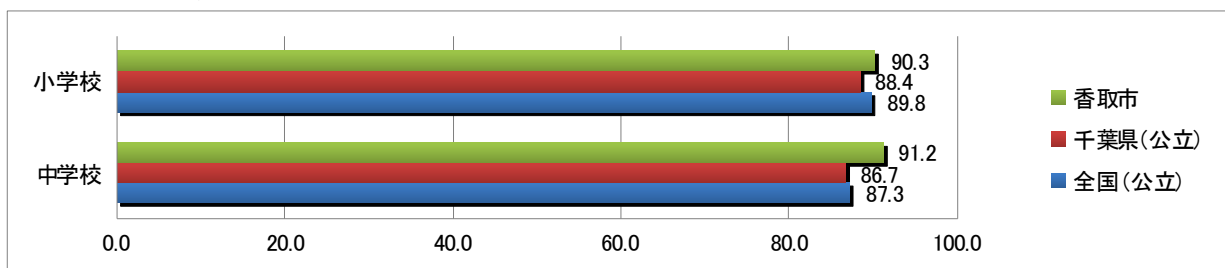
- 言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。例えば、教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読する活動や、既習の表現を同じ言語の働きごとに分類したり、同じ言語の働きをもつ表現同士を比較して相違点を考えたりする活動が考えられる。
- 自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションになれる学習活動や、意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたり音読したりする活動が考えられる。
- 短い説明やエッセイ、物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、書き手が伝えたいことの大まかな内容を把握したりする活動が考えられる。また、それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解したり、キーワードを拾い、全体としての内容を数文の英語でまとめたりする学習活動が考えられる。

7 生活習慣や学習習慣等について

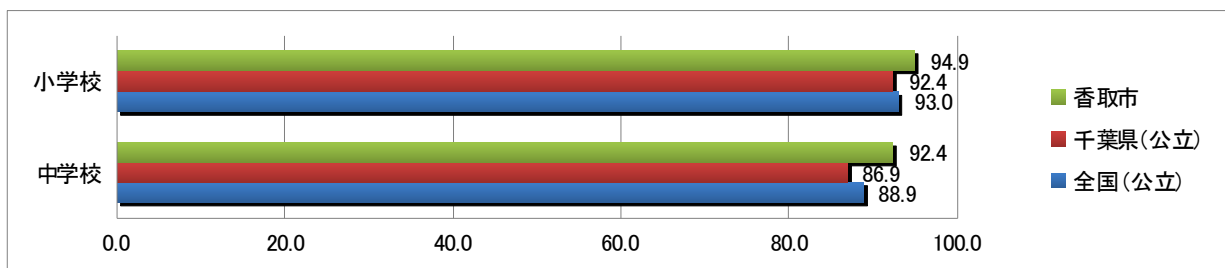
児童・生徒質問紙調査の結果から

※児童・生徒質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした児童・生徒の割合 (%)

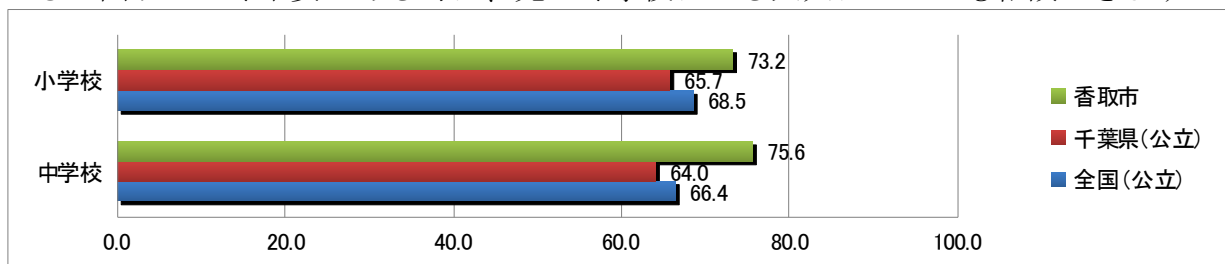
○ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



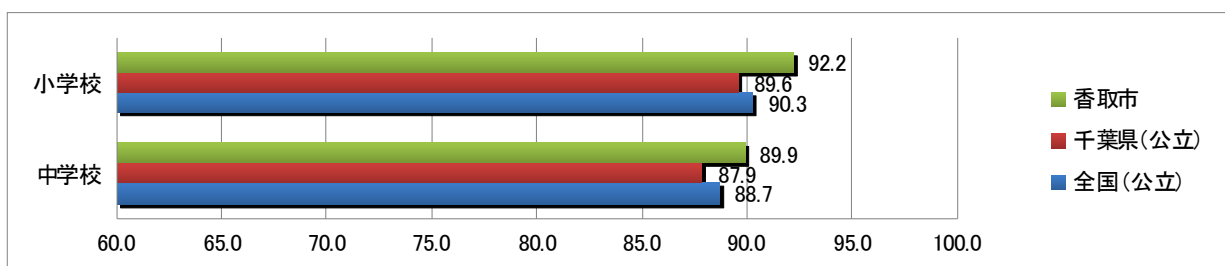
○ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



○ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

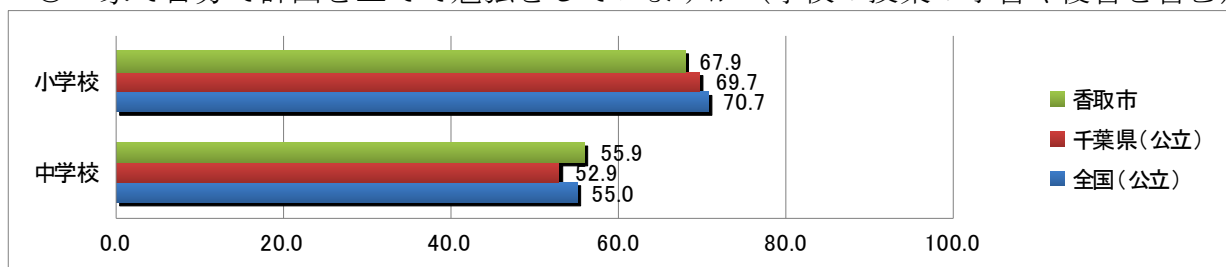


○ 友達関係に満足していますか

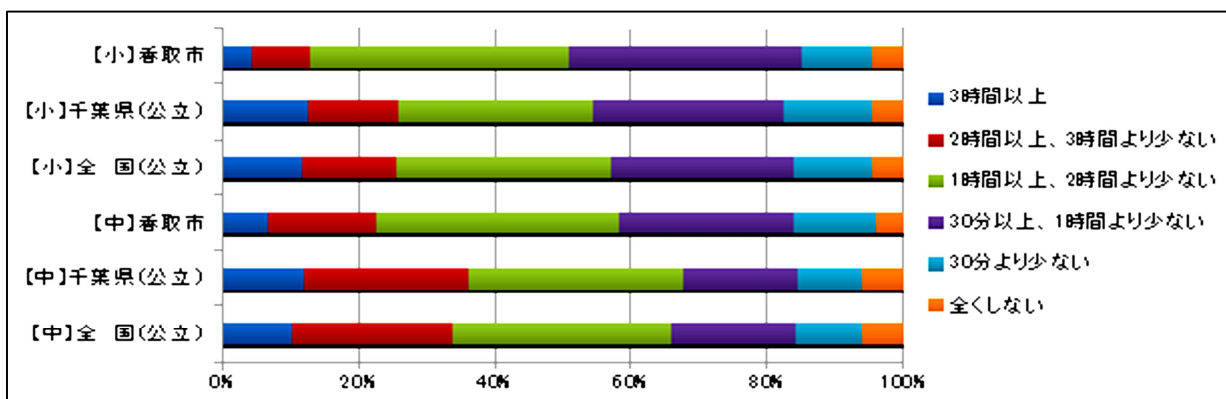


「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の問いに対して、90%を超える児童生徒が肯定的に回答しており、児童生徒と教職員の関係は良好といえます。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「友達関係に満足していますか」の問いに対しても全国や県を上回る肯定的な回答が得られ、学校生活への安心感や充実感がある子が多いと考えられます。

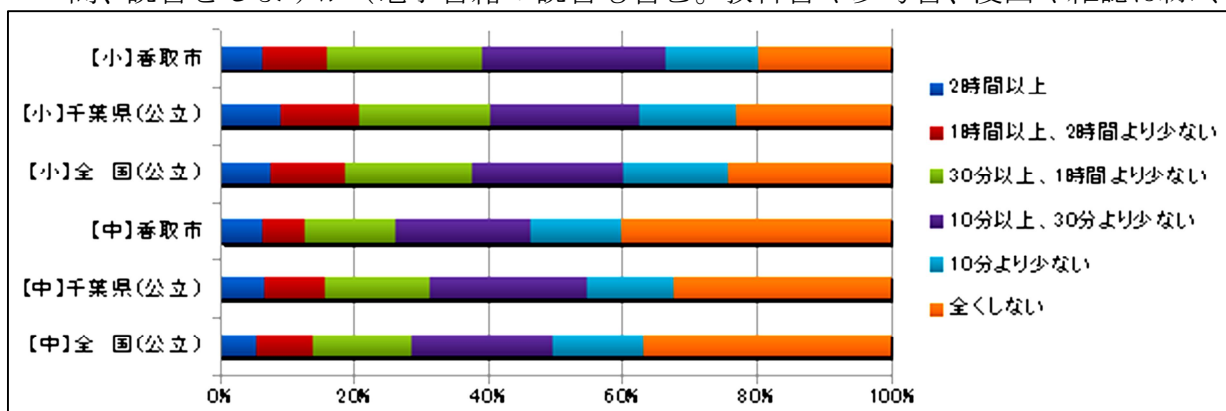
○ 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



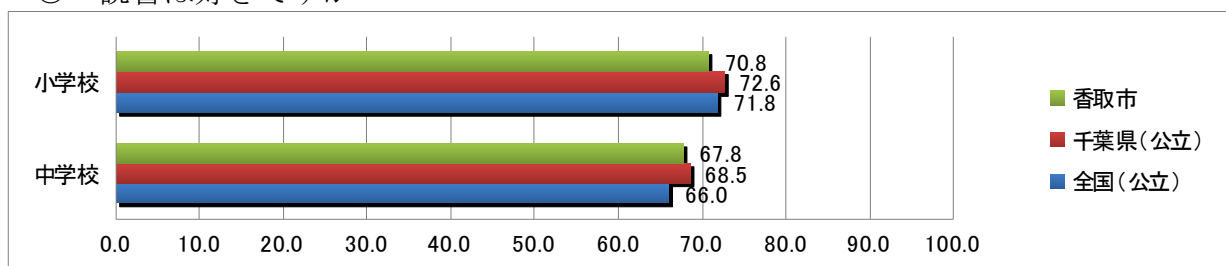
○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

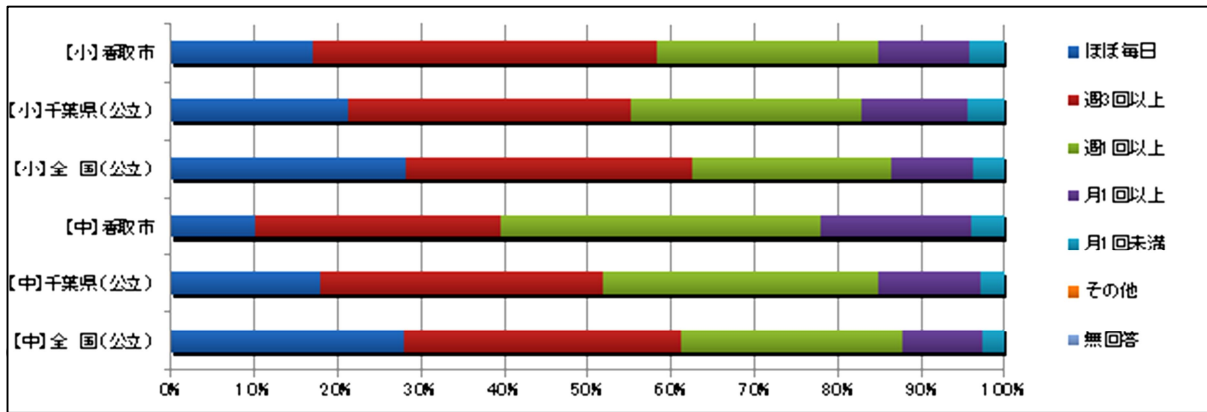


○ 読書は好きですか

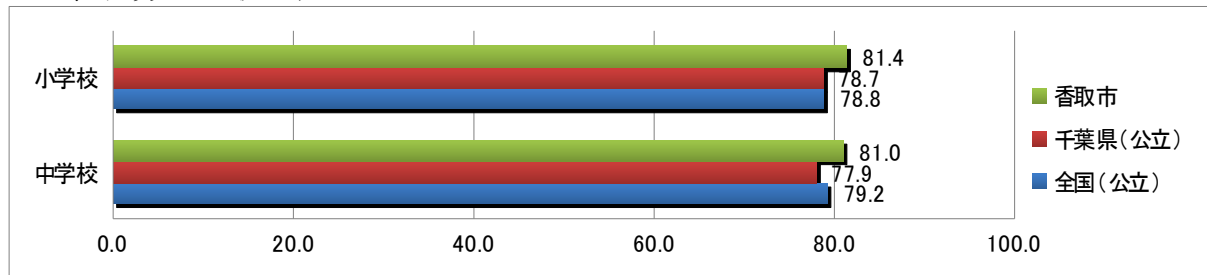


学校の授業時間以外に勉強する時間について、全国や県と比較して香取市は「2時間以上」の割合が少なく、「30分以上、2時間未満」が多いことが分かりました。読書時間については、全国や県とほぼ同程度の結果でしたが、読書が好きな児童生徒の割合は、県をわずかに下回る結果となりました。

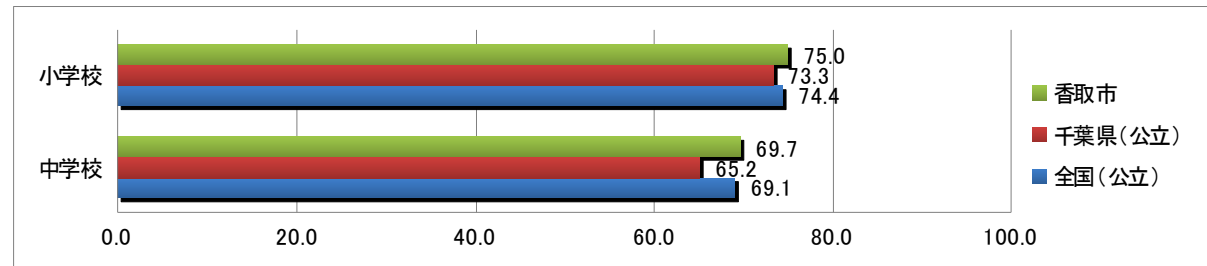
○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



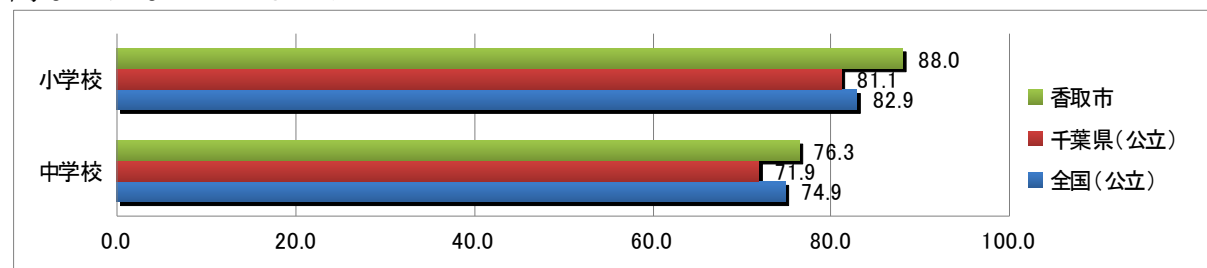
○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



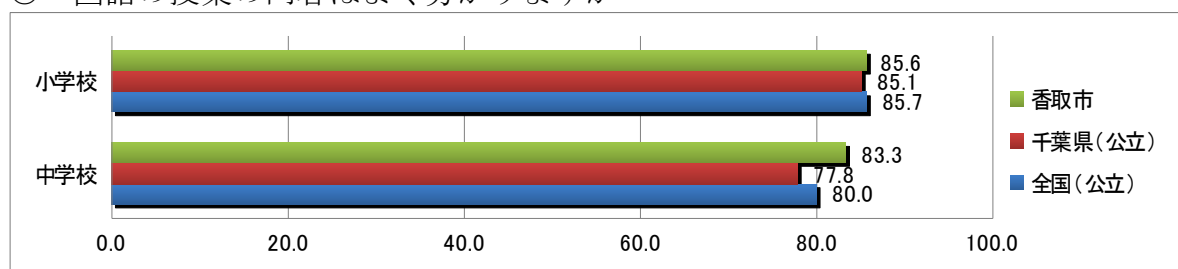
○ 小学5年生・中学2年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



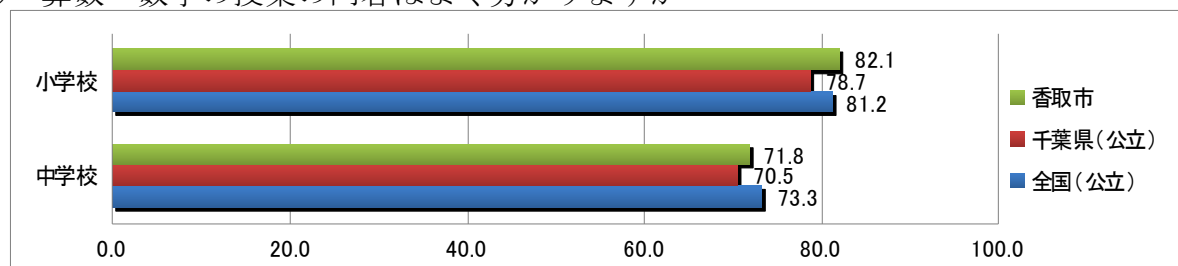
「小学校5年・中学校2年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いに対し、香取市の児童生徒は全国や県よりも高い割合で肯定的に答えており、学習への主体性の高さが分かります。

「小学校5年・中学校2年までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いに対し、全国や県を上回る高い割合の肯定的な回答がありました。授業に対する満足度の高さが分かります。

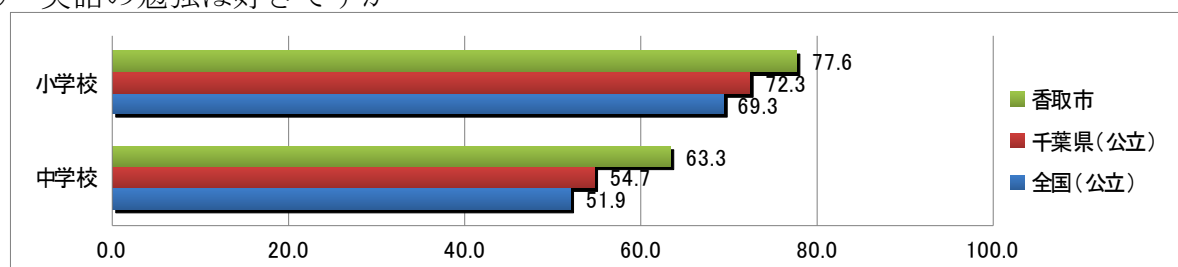
○ 国語の授業の内容はよく分かりますか



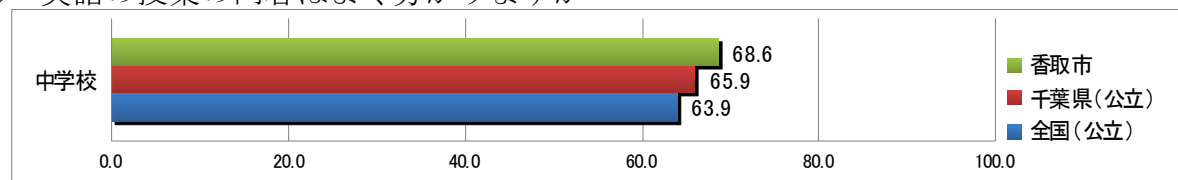
○ 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



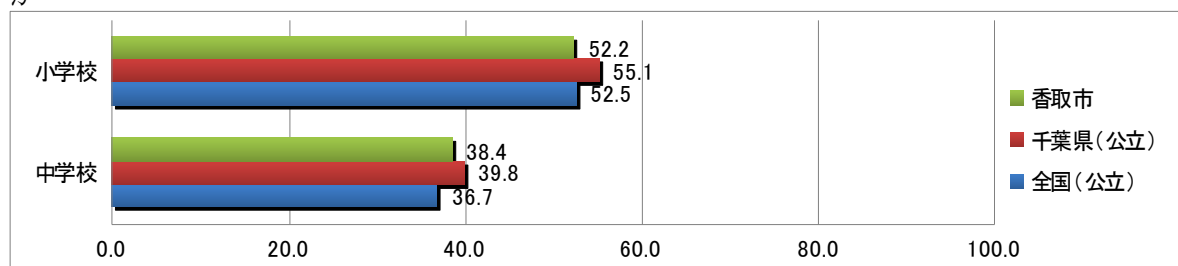
○ 英語の勉強は好きですか



○ 英語の授業の内容はよく分かりますか



○ 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか



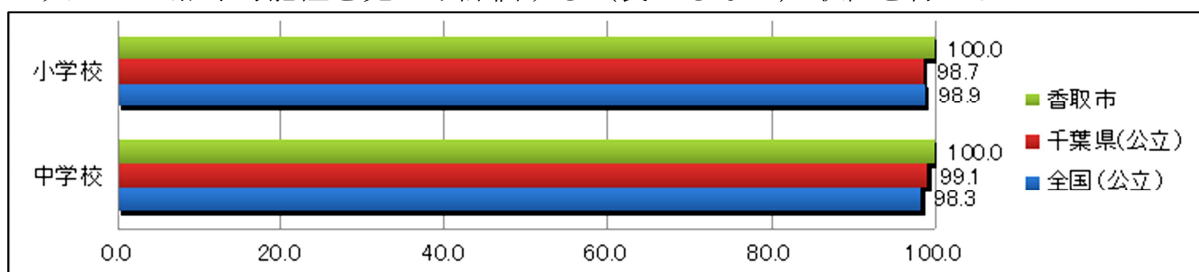
国語や算数・数学、英語について「好き」と答える児童生徒が多く、全国や県の割合と同程度または上回る結果となりました。特に英語への肯定的な回答の割合は非常に高く、理由のひとつに「授業の内容がよく分かる」ことが推測されます。

一方で、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」の問いに対しては、全国と同程度または県よりわずかに低い結果となりました。英語の勉強の楽しさと、体験活動やキャリア教育を結び付けて、日常的に英語を活用する機会を増やす手立てを考えていく必要があります。

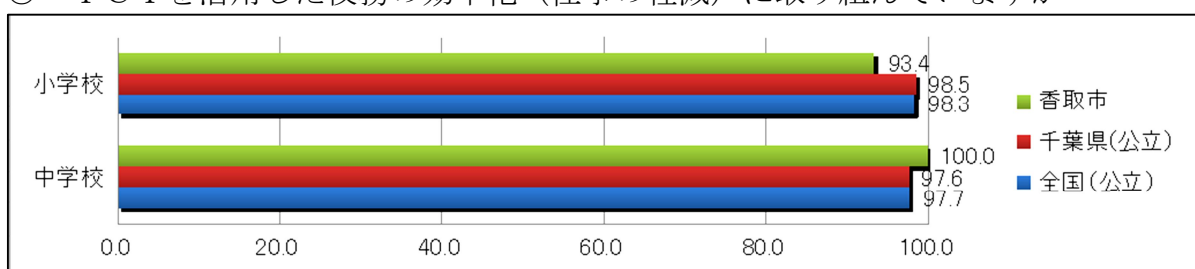
学校質問紙調査の結果から

※学校質問紙から一部を抜粋 ※数値は肯定的な回答をした学校の割合 (%)

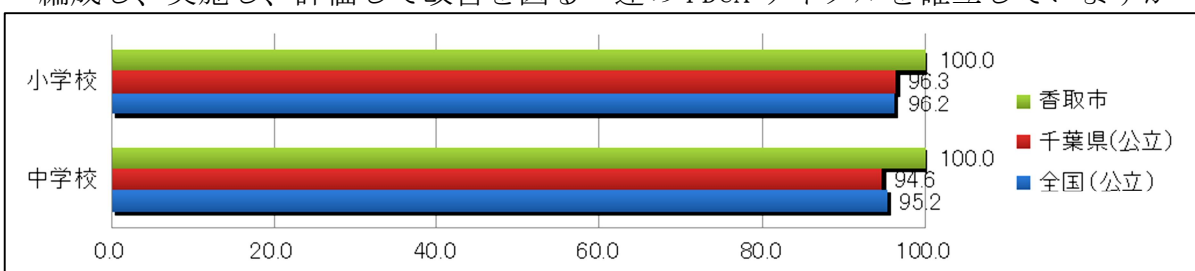
- 調査学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



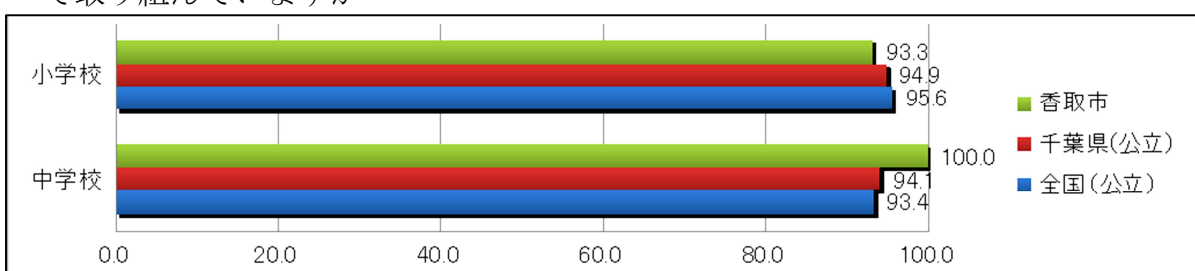
- ICTを活用した校務の効率化（仕事の軽減）に取り組んでいますか



- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



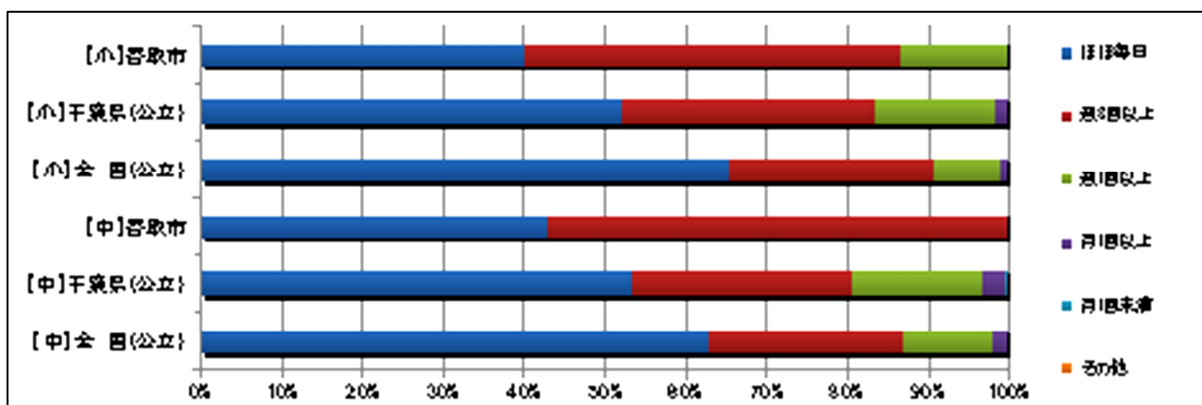
- 言語活動について、国語科を要にしつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



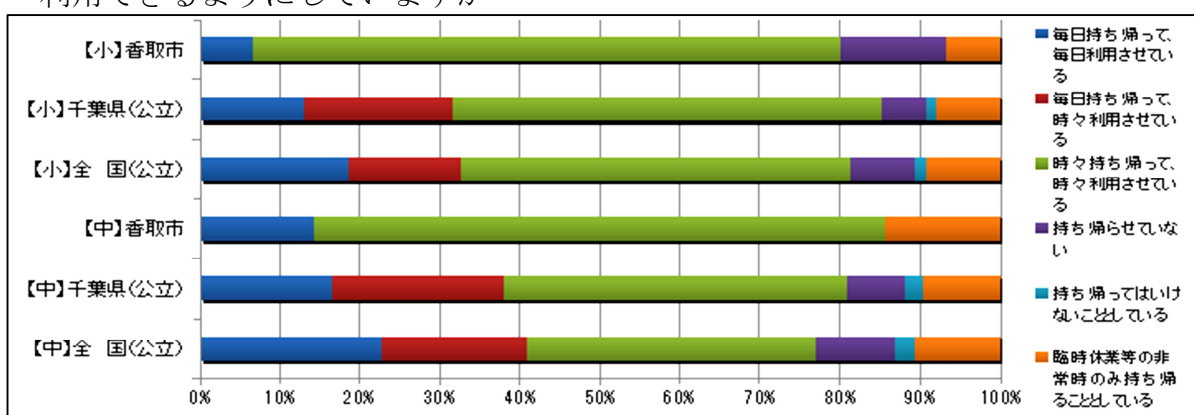
問いに対して9割以上の学校が肯定的に回答しており、児童生徒一人一人を認めて伸ばす学校づくりや、児童生徒の実態や調査、各種データに基づいた教育課程の編成と、その改善を図る一連のPDCAサイクルを機能させている学校づくりが進められていることが分かります。

また、多くの学校でICTを活用した校務の効率化にも取り組んでいる様子が分かります。良好な結果といえます。

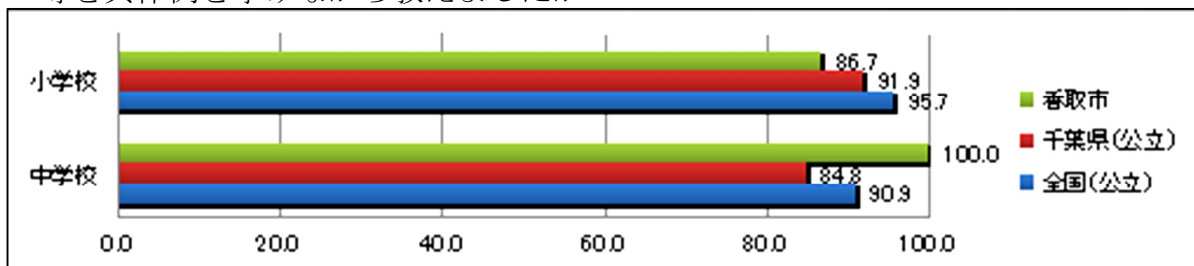
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか



- 児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか



- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



授業での ICT 活用では、全国や県と比較して「ほぼ毎日」と答えた学校の割合が低く、「週 3 日以上」と答えた学校の割合が高いことが分かりました。使用頻度と同時に、効果的な活用方法も引き続き考えていく必要があります。

児童生徒に配備されたタブレット端末の家庭への持ち帰りに関しては、「毎日持ち帰って毎日利用している」と答えた学校の割合は低く、「時々持ち帰って時々利用している」と答えた割合が高いことが分かりました。

家庭学習の方法については、中学校で具体例を挙げながら指導が進んでいる一方、小学校では全国や県と比較して低い結果となりました。家庭学習の充実と習慣化のため、より具体的かつ丁寧に指導していく必要性が感じられます。

教科等の重点的な指導について

◆「思考し、表現する力を高める実践モデルプログラム」を活用した授業改善

- ・単元計画や授業計画の中に、「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」という4つの過程を意図的・計画的に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に引き続き取り組む。

◆学習の見通しをもち、「振り返り」を大切にした授業づくり

- ・既習内容や生活経験といった根拠のある見通しをもたせる工夫をする。
- ・学んだことを振り返り、「自分の言葉でまとめる」活動に徹底して取り組む。

◆個別最適な学び・協働的な学びを支えるICT活用

- ・児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法や教材等の提供及び学習時間の柔軟な設定等をするために、積極的にICTを活用する。
- ・児童生徒一人一人に応じた学習活動や学習目標に取り組む機会等を提供するために、積極的にICTを活用する。
- ・探究的な学習や体験活動等を通じて、子ども同士や多様な他者とのオンラインを含む協働的な学びを推進する。

◆言語活動の日常的な充実

各教科において、児童生徒の言語活動の機会を日常的に確保するとともに、それらの表現の質をさらに高められるように以下の取組を行う。

- ・語彙を増やす活動
- ・話し合う内容の焦点化
- ・発表の仕方の工夫
- ・感想や意見を書く活動
- ・長文や物語を要約する活動

◆検証機能を大切にした「指導改善サイクル」の改善

- ・全国学力・学習状況調査の問題の内容を把握する。
- ・全国学力・学習状況調査結果の把握とその分析を行う（県分析ツールの活用）。
- ・指導改善の取組を行う。
- ・指導改善の取組結果を検証する（客観的な分析による成果と課題の明確化）。

生活習慣・学習習慣について

◆生活習慣の見直しと改善

- ・児童生徒の携帯電話やスマートフォンの長時間利用や、家庭での利用ルールの未設定などの課題に対し、情報モラルや情報リテラシー、健康の維持増進等の観点から見直しと改善を図るとともに、保護者に対して啓発を図る。

◆家庭での学習習慣の定着

- ・学校（教員）は、児童生徒の実態に合わせて、家庭学習の量や質、方法、時間などを十分検討し、内容の充実を図る。
- ・学校（教員）は、児童生徒に対して家庭での学習方法や内容の充実を図るための指導、助言を行う。
- ・学校（教員）は、保護者に対して家庭学習の啓発を図り、習慣化できるように支援する。

9 指導の重点

○文部科学省提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査 報告書
- ・令和5年度全国学力・学習状況調査 解説資料

○千葉県教育委員会提供の資料を活用し、各校の授業改善に役立てます。

- ・「全国学力・学習状況調査データ」の分析ツール
- ・学びの突破口ガイド（小学校 低・中・高学年）
- ・ちばっ子チャレンジ100（小学校 低・中・高学年）
- ・「ちばのやる気」学習ガイド1・2・3（中学校 全学年）
- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム改訂版
(小学校1年～中学校3年)

○千葉県教育委員会では、家庭学習の充実をめざし、さまざまな視点から自らの学びを築くためのヒントをホームページに掲載しています。

対象は、児童生徒のみなさんや保護者の方々、そして学校の先生方です。

下記URLを参照して、家庭で、学校でご活用ください。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/2011/kateigakushuu.html>

○香取市教育委員会では、保護者用リーフレット「家庭学習のすすめ」を作成し、全小中学校の児童生徒を通して全家庭に配付しています。

下記URLを参照して、家庭でご活用ください。

<http://www.city.katori.lg.jp/kosodate/gakkokyoiku/kateigakushu.html>